（1）施設計画の方針

■博物館の活動を支える施設整備

- 新博物館の基本理念「市民・来館者と共に考え、活動し、成長する博物館」を実現するために、必要な空間と設備を備えた施設を整備します。
- 歴史資料の保存・継承を図る拠点として、堅固な構造や、資料保存環境等必要な設備を持つ施設とします。
- 文化庁による公開承認施設の基準を満たす機能を備えます。
- 増床の余地を残した敷地利用のあり方を検討するなど、博物館として長く使い続けるため、将来の活動の拡充等に対応できる施設整備を行います。

■周辺との一体的な整備とランドマーク性

- 新博物館の建設予定地は現博物館の隣接地であり、周辺には総合体育館や十日町情報館、水辺公園など市民の利用が多い施設があることから、これらとの一体的な整備を行います。
- 十日町駅から繋がる緑道や、南側の遺跡広場については、利用者の相互利用を想定し、周遊動線のあり方を検討します。
- 建築や外構整備については、シンプルで長く愛されるデザインであると共に、豪雪地帯であるため、雪との共存や雪景色との調和のあるものとします。また、現博物館との調和も想定したものとします。
- 積雪に関しては、関係法令（新潟県建築基準法施行細則多雪区域の指定など）を順守すると共に、博物館として克雪・利雪・親雪を考慮した計画とします。
- これからの博物館としてランドマーク性も備えた施設を目指します。

■利用者の視点に立った施設整備

- すべての利用者にとって安全で快適な空間となるよう、ユニバーサルデザインの取り組みを行います。
- 休憩スペースを適切に設けるなど、すべての利用者が心地よく過ごすことのできる空間づくりを行います。
- 学校の利用など団体利用者への対応に必要な空間や設備、駐車スペースを確保します。

■維持管理にかかるコスト低減への配慮

- 施設の整備にあたり、合理的・効率的な構造・仕様となるよう建築設計の段階で十分な検討を行います。
- 計画的で適切な維持管理により、施設の長寿命化や修繕費を含むライフサイクルコストの軽減を目指します。
- 地域の特性を踏まえた積雪対策においても、合理的・効率的な構造・仕様を検討します。

■環境保全への配慮

- 省エネルギーに効果のある建築デザインや設備を採用し、環境への負荷を抑えます。
- 環境に配慮した資材・物品の調達に努めます。
- 工事に際しては、環境への影響の少ない工法、建設機械を採用するとともに、可能な限り周辺地域への影響の低減に努めます。

■観光との連携

- 市外からの来訪者に対して十日町市の歴史・文化・観光に関する情報を提供し、市内への回遊を促す機能を備えます。
- 多くの人が気軽に訪れて、街中散策に出かける拠点となることを目指します。
- 周辺地域への案内サインや外観を含めて、場所がわかりやすく、来訪者が訪れやすい博物館を目指します。

(2) 想定される規模

- 新博物館の基本理念の実現に向け、諸活動を支えるための諸室と設備を配置することや、市民による利活用に資すること、将来の歴史資料の増加や現博物館との連携に対応でき、活動の拡充を見越したスペースを確保することを考慮したうえで、延床面積は約3,000㎡程度を目途とします。
- 駐車場規模は、新博物館正面に普通車18台と現遺跡広場に一般者駐車場として27台、観光バス3台を想定します。

(3) 立地環境

■建設予定地

- 十日町市遺跡ひろば及び広場脇公園用地
- 住　　所：十日町市寅甲地内
- 用途地域：第一種中高層住居専用地域 建ぺい率 60% 容積率 150%
  （「第２種住居地域」もしくは「準住居地域」への用途の見直しが必要）
- その他の地域・地区：十日町市緑道（都市公園緑地部分）
  都市計画の変更手続きが必要（都市公園内に教養施設を設置するための見直し）。
  都市公園面積（緑道全体）2.6haより、建ぺい率12%、建築面積3,120㎡まで可
- 防火・準防火地域：指定なし
- 高度地区ほか：制限なし　敷地内上空の一部に東北電力の送電線あり
- 敷地面積：約4,983㎡、駐車場整備面積（十日町市遺跡ひろばの一部）1260㎡
- アクセス：十日町駅（JR東日本・北越急行）から徒歩10分
  越後交通「本町6丁目停留所」から徒歩10分
  関越自動車道六日町インターチェンジより車で約30分

■周辺施設

（4）建築計画

国指定文化財の公開・展示、収蔵ができるよう文化庁が定めた「文化財公開施設の計画に関する指針」（平成7年・文化庁文化財保護部）に沿う施設とします。

■配置計画・アプローチの考え方

- 建物（2階建て）と屋外広場と大型バスの寄り付きが可能な車寄せと敷地内駐車場、搬入用（職員用）車寄せと駐車場で構成されます。
- 来館者動線と搬入動線は分離します。
- 主要な車輌動線は、敷地南西側道路の南寄りからアプローチします。
- 歩行者アプローチは、敷地南西側道路から行います。
- 周辺施設（十日町情報館、総合体育館、現博物館）及び遺跡ひろばと水辺公園からの動線も考慮します。

■平面計画

- 1階に展示機能と交流機能と管理・運営・調査・研究機能の一部、2階に収蔵・保存機能と管理・運営・調査・研究機能の残りを想定します。
- 利用者に開かれた博物館とするため、気軽に訪れやすい空間配置とし、敷地形状、外部環境との連続性を意識したレイアウトとします。
- 博物館として必要な専門設備を効果的に配した機能的な各室配置とします。

■立面・内装計画

- 社会的文化価値を高め、来館者を魅了し、市民に愛される外観のデザインを目指します。
- 十日町市の歴史と文化を象徴し、過去だけでなくこれからの十日町市をイメージできるものとします。
- 周辺環境との調和に配慮した建物デザインや色彩計画とし、建物の長寿命化及びメンテナンス性を考慮した計画とします。
- 内装計画は、各室に必要な機能を確保し、使用のされ方にふさわしい性能を有するものとします。将来的な展示計画を考慮して、展示内容の更新等に柔軟に対応できるようにします。
- シックハウス等による健康被害を予防するための対策を講じます。

■断面計画

- エントランスホール及び展示室、収蔵庫等はゆとりある天井高を確保します。
- 展示室及び収蔵庫は資料保護のため外光を入れないものとします。
- 収蔵庫は、資料保護のため温湿度変化の少ない配置を検討します。

■構造計画

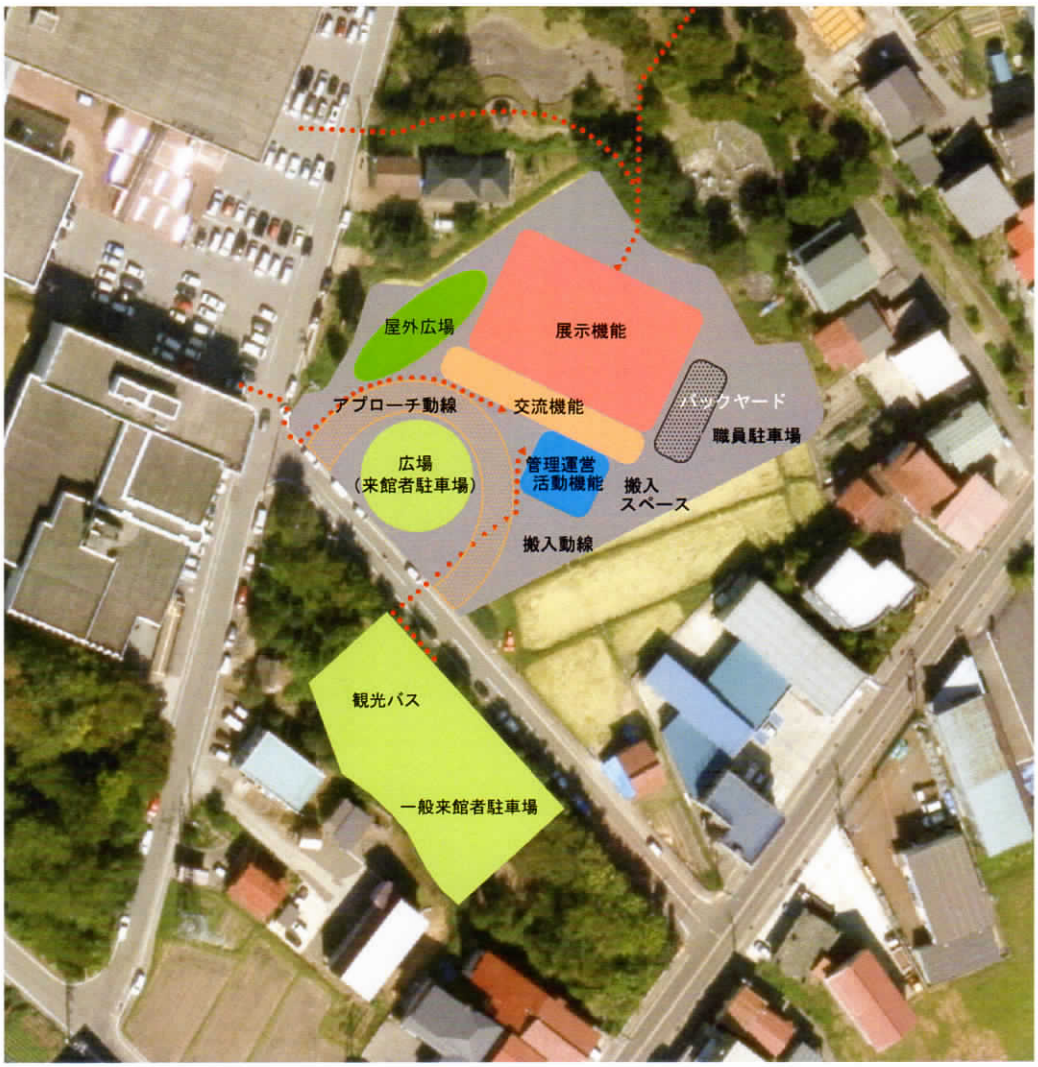
- 耐震性に優れた構造とします。
- 展示室等は高い観覧機能と、将来の展示更新に備えた可変性を持たせるため、極力、柱の少ない構造を検討します。
- 経済性に十分配慮した構造形式を追及します。

（4）建築計画

■設備計画

- 環境に配慮した施設となるように、ＣＯ2削減や省エネルギー等の検討をします。電気設備や機械設備は、新技術や新機材の調査・検討を行い、イニシャルコストやランニングコスト、メンテナンスについても配慮した計画とします。
- 情報化社会への対応として、博物館資料や市内の資料を映像等によるデジタル化を進め、館内端末やホームページなどで公開を検討します。また、市内の各施設とのネットワークや、 外部ネットワークへのアクセス環境の充実をセキュリティに配慮して検討します（無料Wi-Fi、4G、LTEなど外部への公衆回線を検討）。
- 多くの利用者が集まる公共施設として、耐震・耐火やその他の防災性を確保し、防犯面への配慮など安全性と安心が確保された施設とします。災害時には施設利用者の避難の場を想定し、一時避難施設として位置付けます。具体的内容は設計段階で検討します。

■土地利用計画図



(5) 現況写真

新博物館建設予定地

新博物館建設予定地

新博物館建設予定地
新博物館駐車場予定地
普通車 27台・観光バス 3台

新博物館建設予定地

建設予定地　秋頃の様子
新博物館建設予定地

建設予定地　冬頃の様子
新博物館建設予定地

(6) 施設諸機能

施設は「展示機能」、「交流機能」、「収集・保存機能」、「管理運営・調査研究機能」の4つの機能で構成されます。

展示機能

◆常設展示室全般（公開承認施設対応）

導入展示「十日町市と地域の文化」から各展示テーマへ導きます。

[設計機能与件-展示室共通項目]

- 展示は実物資料を中心とし、映像・音声・模型・参加体験型展示などの手法も取り入れ、誰もが親しめるわかりやすい展示とします。
- 実物資料の展示にあたっては、その保存と管理に十分配慮し、また、資料を安全かつ迅速に入れ替え可能な展示方法を検討します。
- 将来的なリニューアル及び展示内容の容易な更新を考慮した展示方法を検討します。
- 映像及び音声、模型展示の導入にあたっては、容易なメンテナンス、また、模型展示では可動性・可変性を考慮します。
- 展示室内は開放感のある(見通しの良い)展示配置とし、団体の来館者案内および災害時の避難誘導に十分配慮します。
- 全ての来館者が快適に展示を楽しむことができるよう計画します。
  （視覚や聴覚上の障がいのある来館者が展示解説に参加できるように配慮した展示を検討します。）
- 基本的に外光を遮断し、紫外線の進入を防ぐことのできる配置計画とします。
- 電気設備と照明設備は展示資料やメンテナンスに配慮したものとします。
  （LED採用及び紫外線カット、波長調整や演出機能を備えた照明、展示演出や映像情報を踏まえた充分な電気容量、用途運用を考慮した分電盤、調光盤回路の検討をします。）
- 建築設計との綿密な連携を図り、展示活動と空間が融和した設計を検討します。
- 展示資料の保存と公開に配慮した平面配置、動線、保存環境機能に配慮します。
  （恒温恒湿を保つ室内環境としての単独空調や温湿度モニタ管理設備、エアタイト展示ケースなどを備えたものとします。）
- 開放性と展示演出・効果が両立された計画を検討します。
  （監視カメラやモニタリング設備のセキュリティ環境、ガス消火設備を検討します。）
- 展示の可変性に対応した計画を考慮します。
  （展示物の吊り下げバトンやライティングダクトなどの天井設備、什器固定や電気配線にフレキシブルに対応し重荷重に耐えうる二重床などの床設備を検討します。）
- 展示準備室・荷解室及び収蔵庫との動線に配慮します。
- 展示に関心を持った来館者が探究心に応じて自分の端末等で必要な情報をタイムリーに調べられるように、無料Wi-Fi、4G、LTEなど外部への公衆回線利用を検討します。

◆企画展示室（公開承認施設対応）

広く他館から国指定文化財の借受が可能な室内環境を持った可変型の展示室とします。

[設計機能与件]

- 恒温恒湿を保つ室内環境としての単独空調を備えたものとします。
- 基本的に外光を遮断し、紫外線の進入を防ぐことのできる配置計画とします。
- 電気設備と照明設備は展示資料やメンテナンスに配慮したものとします。
  （LED採用及び紫外線カット、波長調整や演出機能を備えた照明、展示演出や映像情報を踏まえた充分な電気容量、用途運用を考慮した分電盤、調光盤回路の検討をします。）
- 展示の可変性に対応した計画を考慮します。
  （展示物の吊り下げバトンやライティングダクトなどの天井設備、什器固定や電気配線にフレキシブルに対応し重荷重に耐えうる二重床などの床設備を検討します。）
- 展示準備室・荷解室及び収蔵庫との動線に配慮します。

◆展示準備室

各展示室の機材・展示ケース・備品等を保管し、展示更新の準備作業を行えるスペースとします。

[設計機能与件]
・常設展示室の近くに配置し、資料管理、運営面に考慮します。
・荷解室及び収蔵庫との動線を確保します。
・大型資料の撮影が可能な写場機能を検討します。

◆トラックヤード

搬入用トラックの収容、開梱・梱包作業等が可能なスペースを確保します。

[設計機能与件]
・美術品専門車の搬出入を考慮します。
・来館者動線と交錯しない配置を計画します。
・トラックヤード内外のシャッター開閉は降雪や強風を配慮します。

交流機能

◆講堂

学校対応や研究発表、講演会、各種イベントの開催に対応する空間とします。

[設計機能与件]
・50人対応程度を想定した広さとします。
・可動間仕切り壁など、可変性のあるしつらえを検討します。
・単独利用が可能となるよう、利用者動線に配慮します。
・多目的に使用できるよう、音響設備・プロジェクター等の整備も検討します。

◆体験コーナー

エントランスホールの中で、外部との繋がりも感じられる雰囲気の中で、様々な体験活動の場として活用できる学習やおもてなしの空間とします。

[設計機能与件]
・来館者にアピールしやすい開放的な空間とします。
・屋外空間と連携したイベントの開催などに対応できるしつらえを考慮します。

管理運営・調査研究機能

◆研究室

学芸員の活動スペース。館外ネットワークの構築・更新を行います。また、研究情報のデータベース登録・加工・保存等も行います。

[設計機能与件]
- 管理運営ゾーンや収蔵庫との連絡動線を考慮します。
- 作業机及びPC電源、LAN配線設備を検討します。

◆資料整理室

研究室と連携して、各種資料の整理作業、情報のデータベース構築作業にも使用します。

[設計機能与件]
- 収蔵庫及び研究室と連携の可能な配置とします。
- 展示機能とのつながりに配慮した配置を検討します。
- 作業机及びPC電源、LAN配線設備を検討します。
- 洗い場設備を検討します。

◆図書資料室

資料閲覧コーナーのバックヤードとして非公開エリアとします。十日町市の歴史と文化に関する図書や写真資料、調査・研究の成果等を保管します。

[設計機能与件]
- 空調を施し、温湿度条件に考慮します。
- 研究室や資料整理室との連絡動線に配慮します。
- 図書資料の分類を踏まえたラック・書架等の配置計画を考慮します。
- 床荷重を考慮した計画とします。

◆会議室

職員及び館関係者、友の会会員などによる会議を行います。

[設計機能与件]
- 20人対応程度の会議が行える広さを検討します。
- 事務室及び友の会室との連絡動線に配慮します。

◆友の会室

博物館の活動を支える友の会の活動拠点として、ミーティング、事務作業、休憩等に使用します。

[設計機能与件]
- 事務室及び会議室との連絡動線に配慮します。

収集・保存機能

◆収蔵庫

所蔵資料の保存と国指定文化財の借受資料の一次保管に対応します。資料の種別毎に適切に保存可能で、耐火性・耐震性・安全性・十分な容量を有する機能とします。

[設計機能与件]

- 収蔵庫内温湿度管理に関して、借用資料借受時に提出する24時間温湿度データーを管理出来るシステムの導入を検討します。
- 資料種別毎の温湿度設定と収蔵棚に関する仕様とします。
- 2重壁構造の採用及び前室の設置により外気との遮断を行った上で、恒温恒湿の空調による温湿度管理をします。
- 耐火性及び耐震性を確保し、特殊消火設備を考慮します。
- 荷解室及び展示準備室とフラットアクセスが可能な収蔵庫扉仕様を考慮します。
- 事務室や研究室との連絡動線に配慮します。
- 収蔵資料の特性を踏まえたラック・書架等の配置計画とします。
- 他館の国指定文化財の借受けも可能となるよう、文化庁指針を遵守します。
- 外壁側断熱を施して収蔵庫内温湿度安定化を実施し、温湿度データーの1年間確認など、所蔵資料の保存と国指定文化財の借受資料の保存に適した収蔵機能を考慮します。
- 空調機運転停止時期を考察し、運用ランニングコスト削減も検討します。

■収蔵庫想定グレード

■ 参考事例写真	■ 主な特長	・性能重視型 ・標準的タイプ	
 写真の調湿素材は けいそう土	■ 主な仕様		
	吸放湿性能	・調湿パネルの応答速度の速い吸放湿性能	○
	アルカリガス対策	・下地パネルにてアルカリガスを遮断	◎
	清浄環境	・調湿パネル素材は汚染物質を含まず	◎
	VOC対策	・調湿パネルにてホルムアルデヒド等吸着	◎
	不燃性	・調湿パネル素材は認定不燃材	◎
	耐久性	・調湿パネルは無機質のため高耐久性	◎
	施工性	・パネル工法のため現場工期の短縮	◎
	■ 留意事項	・調湿パネル表面は強い衝撃に弱い	
	■ コスト(円/㎡)	・天井 38,000	○
	※参考価格	・壁 52,000	○
	※消費税別途	・床 54,000	○
		・諸経費 15~20%	○
	■ 備 考	・空調設備との打合せ必要 ・施工環境の打合せ必要 ・別途工事:天井インサート、電気・設備工事 ・別途見積り:点検口(エアタイト仕様、開口補強含む)	

◎特にメリットあり ○メリットあり

■各収蔵庫設定

	収蔵庫名	保存相対湿度環境	収蔵庫内装	収蔵庫棚
1	国宝・笹山遺跡出土品収蔵庫	５０%~６０%	調湿内装	スチール製免震、耐震棚
2	重要考古資料収蔵庫	５０%~６０%	調湿内装	スチール製免震、耐震棚
3	重文・越後縮関連資料収蔵庫	５０%~６０%	調湿内装	木製箪笥、耐震棚
4	重文・積雪期用具収蔵庫	５５%~６０%	調湿内装	スチール製耐震棚、耐震棚
5	重要民俗資料収蔵庫	５５%~６０%	調湿内装	スチール製耐震棚・木製収納棚
6	借用資料保管庫	５０%~６０%	調湿内装	スチール製耐震棚、耐震棚

◆燻蒸室

所蔵資料を安全かつ長期に保存するため、病害虫管理に十分配慮します。

[設計機能与件]
・資料に寄生する害虫等をガスによって駆除します。
・搬出入口の近くに独立した専用のスペースとします。
・排気設備を備え、気密性に留意します。
・建物の空調及び電気等の配管が通らないように考慮します。

共用・サービス機能

◆エントランスホール

市民や市内外の各種団体等による交流を促すために、情報交換等が行えるロビー空間とします。

[設計機能与件]
・風除室を設置します（自動扉）。
・自然を感じられる計画とします。
・施設の総合案内機能を有するよう配慮します。
・資料閲覧コーナー及びミュージアムショップなど誰もが利用できるコーナーの設置を検討します。
・交流及び発信機能とのつながりに配慮した計画とします。
・エントランスホールの一部と講堂との一体利用が可能な配置を検討します。

◆機械室

[設計機能与件]
・電気室及び空調機械室とし、施設の用途・規模を勘案し、必要な天井高・面積を確保します。
・電気室は室内に水の侵入のないよう計画します。
・空調機械室は騒音・振動対策を十分に行います。
・屋外設備機器置場は来館者や周辺からの視線に配慮して計画します。

◆その他

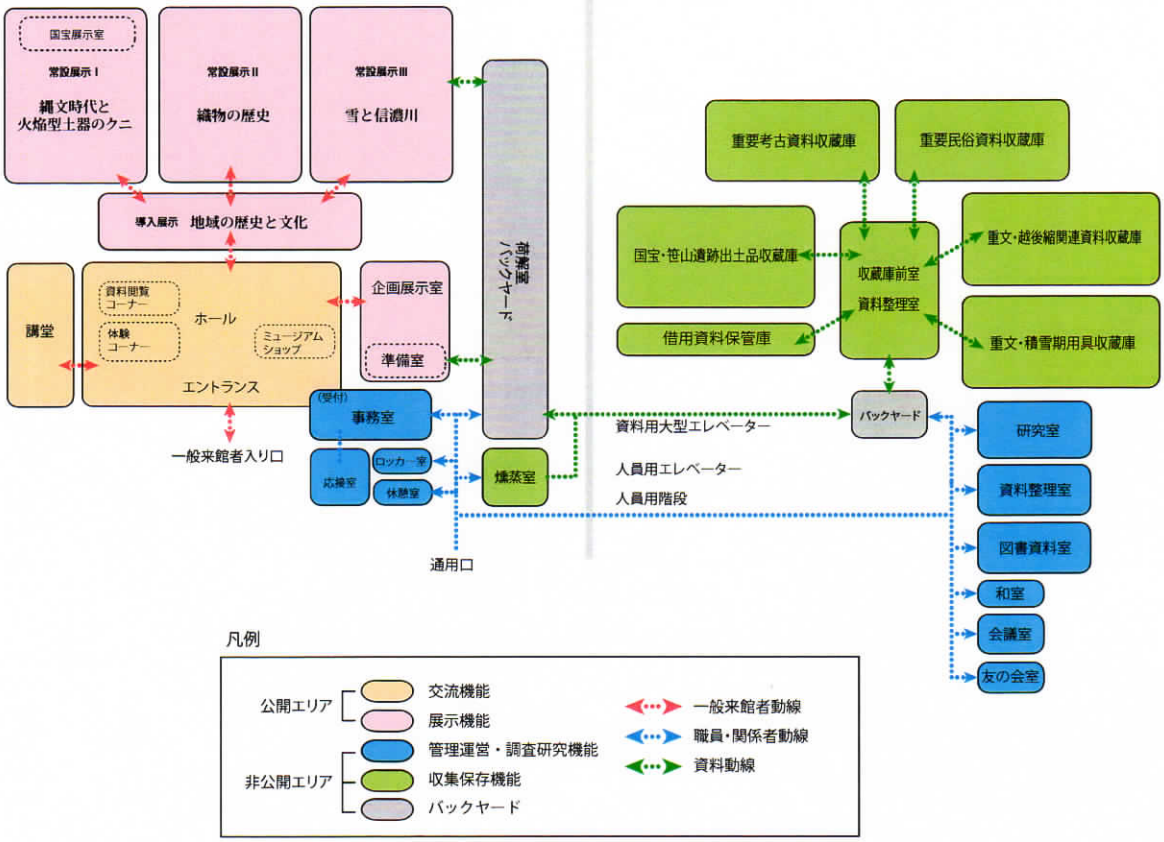
建物全体で配慮するポイントを記載します。

[設計機能与件]
・ユニバーサルデザインとバリアフリーを考慮した設計をします。
・団体対応可能なトイレ数の確保を考慮します。
・来館者動線及び管理動線、資料搬出入動線などが極力交差しない動線・諸室配置計画を行います。

（7）施設機能／構成概念図

1F
公開エリア・一部非公開エリア（管理運営機能）

2F
非公開エリア（管理運営・調査研究機能・収集保存機能）



■現博物館との比較

	機　能	新博物館	現博物館
公開エリア	交　流	407㎡	291㎡
	展　示	1,050㎡	1,050㎡
非公開エリア	管理・運営・調査研究 ほか	810㎡	560㎡
	収集・保存	800㎡	1,280㎡
	合計	3,060㎡	3,181㎡

※現博物館の建物総面積は3,808㎡
上記は機能部分の面積比較のため該当部分のみ記載

(8) 建築面積／延べ床面積／面積表

施設名	面積（階層別）		面積（機能別）	備考
	1階	2階		
展示機能			1,050	
導入展示室	100			テーマ「地域の歴史と文化」
常設展示室1	320			テーマ「縄文時代と火焔型土器のクニ」
常設展示室2	245			テーマ「織物の歴史」
常設展示室3	245			テーマ「雪と信濃川」
企画展示室	140			展示室114＋準備室(兼備品倉庫)26
交流機能			400	
エントランスホール	265			資料閲覧C、WC、休憩、コインロッカーを含む
ミュージアムショップ	20			受付・事務室に隣接
体験コーナー	40			
資料閲覧コーナー				
講堂	75			50人収容、多目的ホールを兼ねる
多目的広場				エントランスホールと接続（屋外）
収集・保存機能			800	
燻蒸室	10			
国宝・笹山遺跡出土品収蔵庫		40		国指定品の保管に最適な温湿度管理が可能
重要考古資料収蔵庫		90		〃
重文・越後縮関連資料収蔵庫		230		〃
重文・積雪期用具収蔵庫		250		〃
重要民俗資料収蔵庫		90		〃
借用資料保管庫		20		〃
収蔵庫前室		70		資料整理スペースを兼ねる
管理・運営・調査研究機能			395	
事務室	80			受付と一体
応接室	25			ミーティング室を兼ねる
ロッカー室		15		
休憩室		20		
和室		20		
友の会室		40		
会議室		40		
研究室		65		
資料整理室		35		
図書資料室		55		
機械室			105	
1F機械室	55			
2F機械室		50		
通路・供用関係ほか			310	
1F供用（管理に含む部分）	25			倉庫（7）、ELV1、階段
荷解室	80			洗い場付属、美術品専用車を収容可能
1Fバックヤード	50			ELV2を含む
2F供用（管理に含む部分）		85		廊下部分面積（倉庫、WC、ELV1、階段を含む）
2Fバックヤード		70		ELV2を含む
合計	1775	1285	3,060	㎡

(1) 建設事業スケジュール

新十日町市博物館は平成32年度開館を目指し、以下の事業スケジュールを想定する。

平成28年度　基本・実施設計（建築・展示）

↓

平成29年度～　建設工事（建築・展示）

枯らし期間（平成30年・夏から約16ヶ月）

※建物のコンクリート・内装材などから発生する資料にとって有害なガスの濃度を下げる期間

平成31年度　開館準備

↓

平成32年度（2020年度）春　開館（予定）

(2) 建設費用の概算

類似施設の建設費や関連する設計料率等により、以下の概算事業費を想定する。

■想定面積

		備考
延床面積	3,060 ㎡	敷地内外構面積3,208㎡、遺跡ひろば駐車場造成面積1260㎡
展示面積	1,050 ㎡	

■建築関連費

	展示事業費合計	備考
建築工事費（設計費込み）	1,900,000 （千円）程度	※考古資料系公開承認施設の建築㎡単価から、本事業の建築工事費㎡単価を510（千円）/㎡として算出。外構工事費を含む　→　①

■展示関連費

	展示事業費合計	備考
展示工事費（設計費込み）	500,000 （千円）程度	※考古資料系公開承認施設の展示㎡単価から、本事業の展示工事費㎡単価を435（千円）/㎡として算出　→　②

■概算事業費

想定事業費合計（①+②）	2,400,000 （千円）程度

■新十日町市博物館開設に向けた体制づくりの検討

新十日町市博物館の整備は、十日町市にとって重要な意味を持ちます。そして、新博物館はこれまでの現博物館の実績をもとに展示や事業展開、博物館運営、周辺施設連携、ミュージアムマネジメントを含む複雑な活動実施計画の策定が必要です。

このことから、博物館整備の着実な推進を図ることのできる体制づくりに努める必要があります。また、開館後も適切な博物館運営が進められるよう、フォロー体制についても検討する必要があります。

■運営計画について

今後、本計画書に基づき、設計・建設が行われることになりますが、目指すべき博物館の整備を確実に行うため、「運営計画」を策定した上で、本計画と「運営計画」を反映させた建築・展示の設計をすすめる必要があります。運営計画では、「展示実施計画」、「活動実施計画」、「管理実施計画」等の策定が必要と考えられます。

■人にやさしい博物館として

新博物館には、大地の芸術祭など市内のイベント開催時期に合わせ、これまで以上に外国人観光客を含む国内外からの様々な来館者が想定されます。そのため、ユニバーサルデザイン及びバリアフリーを考慮した各種サービスの提供について検討する必要があります。

(1) 新十日町市博物館基本計画検討委員会委員名簿

委員名		所属
委員長	青木　豊	國學院大學文学部 教授
副委員長	池田　哲夫	新潟大学人文学部　教授
	山本　哲也	新潟県立歴史博物館 専門研究員
	新田　太郎	東京都江戸東京博物館 事業企画課長
	星名　信昭	十日町市博物館友の会 会長
	池田　史子	giftクリエイティブディレクター・山ノ家 主宰

任期：平成27年5月1日～平成28年3月31日

(2) 基本計画検討委員会開催経過

日時		会場	協議内容
第1回	平成27年7月1日(水)	十日町市博物館 会議室	新十日町市博物館基本構想(案)について
第2回	平成27年10月15日(木)	十日町情報館 第1集会室	新博物館建設候補地について 縄文時代の常設展示について
第3回	平成27年11月28日(土)	十日町市博物館 集会室	必要な諸室と設備および配置について 織物の常設展示について
第4回	平成28年1月29日(金)	十日町情報館 第1集会室	雪・信濃川と地域文化の常設展示について 建物の外観(デザイン)について 基本計画書の内容について
第5回	平成28年3月14日(月)	十日町市博物館 集会室	基本計画書(案)について

(3) 事務局

氏名	所属
蔵品　泰治	十日町市教育委員会 教育長
富井　敏	十日町市教育委員会 教育次長
佐野　誠市	十日町市教育委員会 文化財課 課長(館長)
石原　正敏	十日町市教育委員会 文化財課 課長補佐(副館長・学芸員)
菅沼　亘	十日町市教育委員会 文化財課 埋蔵文化財係長(学芸員)
南雲　勝巳	十日町市教育委員会 文化財課 文化財保護係長